

# 国内研修成果報告書

私たちは今回、島根県の雲南市に研修へ行きました。私は、今回のインターンを通して、一番強く感じたことは、大学の机上で学ぶだけではなく、実際に現場へ行き、自分の目で実際に見て、肌で感じる事が大切だということです。まず、私たちが島根県の雲南市に行きたいと思ったきっかけは、大学の講義でした。私たちが一年次に受けるフィールドスタディ入門の講義にゲスト講師として、雲南市でまちづくりを行っている NPO 法人おっちラボの矢田明子さんが来てくださり、90 分の講義をしてくださいました。初めてお会いした矢田さんでしたが、矢田さんの講義に非常に引かれるものがありました。その講義がきっかけで、おっちラボの取り組みや、雲南市の取り組みなどを実際に見てみたいと思いました。

まず、島根県の現状を知るところから始まりました。私たちが東京にいて知ることができきる情報だけでなく、市役所に招待していただき、雲南市の現状や、取り組みなど、さまざまなお話を聞くことで、さらに詳しく知ることができました。インターネットなどでもわかることですが、雲南市の人口は 39,032 人、世帯は 12,527 世帯、面積は 553.4km<sup>2</sup> という決して大きくはない市です。雲南市の現状として、進む人口減少や、高い高齢化率などが挙げられていました。私は、高齢化率を数値化されてもピンとはきませんでした。日本の 25 年先の高齢化社会をいっていると聞き、周りよりもはるかに高齢化が進んでいることがわかりました。雲南市では、現状をしっかりと把握し、そこから問題点や課題、これからどうしていくべきかなどの対策方法、取り組みなども考えられていました。そんな中、今後活動などを続けていくには、現在様々な活動に取り組んでいらっしゃる世代から次世代への担い手が必要と考えられ、若者の人材育成が必要と考えられているようです。このような考え方はどこの地域でもすると思いますが、私たちが注目したことは、ここで、様々な若者がいる中で、若者自身がチャレンジしたいと思ったことを応援してくださる機関があることでした。それが、おっちラボさんで「子ども×若者×大人チャレンジ」というものでした。おれらは、地方創生交付金により支援をいただいています。これらの主な目的としては、①質の高い教育の提供による将来を担う人材の育成、②大学機関や NPO と連携した課題解決人材育成、③課題解決人材の育成による若者チャレンジの創出、④産業振興センターの機能強化による新たな産業創出、⑤地域や NPO と連携した課題解決人材の UI ターン促進、⑥地域自主組織の活動基盤強化、が挙げられていました。

これらの問題点や課題が挙げられている中で、私たちが今回注目したことは、“NPO 法 おっちラボ”という団体です。私たちも、はじめ疑問に思ったことは、“おっちラボ”とい

う言葉も意味が気になりました。方言で、“おっちら”という言葉があります。これは、“ゆっくりと”という意味があるそうです。名前って大切だなと感じました。

そもそも、“おっちらボ”を見学したいと考えた大きなきっかけとしては、“おっちらボ”の理事長である、矢田明子さんが大学の講義にゲスト講師として来てくださり、お話をしてくださったことでした。その授業では、福祉分野、まちづくり分野、精神分野の3つの分野で各三人ずつゲスト講師が来てくださる授業でした。その中でも矢田さんの講義は、なにか他の人とは別の感じることもあり、すごく刺激を受け、機会があれば実際に行ってみたいな！という思いでした。実際に今回行って見て、若者支援という点において、その若者がやってみたいこと、チャレンジしてみたいことを支援する、「若者チャレンジ」というのがあります。若者自身の気持ちで、さまざまなことにチャレンジしていく、それが雲南市のまちづくりへと繋がっていくという循環は、個人に対しても、地域に対しても、すごく利益のあることだと感じました。私たちが訪問した時期は、丁度1年進めてきた活動の報告会(発表)の直前だったため、その活動の内容、目的を聞き、把握し、実際に地域の人ききていただけるように宣伝をしに、さまざまなところを自分の足でまわりました。地域の方々は、昔の話などさまざまなお話をしてくださるので、非常に勉強になりました。他には、「幸雲南塾」というものを行なっています。実際に行ってみて驚いたのは、実際にここで働いている人で、雲南市が地元という人はほとんどいないということです。隣の市、同じ県内、周りの県、さらに遠くの県などさまざまな人がお勤めされていました。矢田さんにお話を聞いたところ、「いろいろな人を巻き添いにしていく、巻き込んでいっているんだよ！」とおっしゃっていたことが印象的です。実際に様々な分野で活動していた方たちが多かったです。そもそも、矢田さんご自身も看護師でもありますし、まず、雲南市の方でもないそうです。

その他に、「コミケア」という、地域医療を助ける、訪問看護ステーションがあります。そこでは、訪問看護ステーションと知っているのでもちろん地域の高齢者の方の自宅へ看護師が自ら訪問していくことはもちろんですが、さらに「ほほえみ」という、元本屋さんだった場所を活用し、週に1回、誰でも集まれるような会を開き、そこに訪れるみなさんで話をしたり、ストレッチを、みんなで一緒にやってみたりとさまざまな活動をしていました。私たちも実際にその活動に参加させていただいて、人と話して、笑うことってすごく大切だなと感じました。そして、私たちが参加したことですごく喜んでくださって、その姿をみて私たちもすごく嬉しく、楽しい時間でした。私はこういった、活動をすごくいいなと感じました。その理由としては、まず、もともと他のお店だったところを空き家とするのではなくうまく活用をしていること、誰でも気軽に参加できること、適度な運動など、健康のためと考えられた適度な運動などが取り入れられていることなどでした。私たちが体験したときは、柔らかいボールを使って運動をしました。今の私たちでは簡単にできてしまうことでも、高齢者の方々には難しかったりすることもあります。実際に一緒にやってみることで、自分たちにはまだわからない視点などもわかるなと思いました。

そして、さらに市の委託事業として、「温泉キャンパス」と呼ばれている、不登校の児童や生徒が、勉強や自分の趣味に取り組めるような場所があります。学校に行けなくなってしまい、なかなか家から出ないという状況はみなさんも想像つくと思います。しかし、そういったとき、周りがどんな風にしてあげたらいいのかなどはよくわかりません。心を開いてくれるかすはわからないと思います。この「温泉キャンパス」では、福祉分野、精神分野の専門家もそのキャンパスに勤めていらっしやり、すごく充実した環境が設けられていました。この「温泉キャンパス」では、もともと小学校だった廃校を使っているため、教室、調理室、音楽室、体育館などさまざまな設備も整っていました。いま少子化が騒がれている中、若者の未来のための手助けという意味でもこういった不登校児童や生徒のケアというのはすごく重要だなと思いました。

私は今回島根県雲南市にいてみて、非常に学校の廃校が多いことを知りました。少子化が極端に進んでしまっているという点から考えていったら当たり前かもしれませんが、そればかりは、すぐにどうこうできるという問題でもありません。しかし、先ほどの「温泉キャンパス」のような何かの活動で、再利用、有効活用できるとすごくいいなと思いました。

非常に短い期間でしたが、雲南市の方々はみなさん非常に優しく、親切な方が多い地域だなと強く感じました。雲南市という街を知らない人たちが多いいと思います、学ぶことはたくさんあるなと感じました。また機会があったら活動に参加してみたいです。

(総字数 3249 字)